

8月16日(金)～20日(火)の5日間、台湾において「美祿市ふるさと人材育成事業」市民海外研修を実施しましたので、まず今回は、その研修(前半)の様子について、紹介します。

この研修は、市内中学生・高校生を台湾に派遣し、現地学校での交流及び観光地の視察を通して、外国の文化と社会に対する認識を深めるとともに、コミュニケーション能力を育て、国際理解の視野をもつ人材の育成を図ることを目的とし実施されています。

今年は、台湾中部にある南投県立水里国民中学と姉妹校協定を結んでいる於福中学校の藤井校長を団長とし、市内中学生7人と高校生2人の計9人が研修生として参加しました。

また、現地サポートメンバーとして、於福中学校教員1人、市企画政策課職員1人、台北観光・交流事務所職員が同行しました。

研修生のほとんどが初めての海外研修であり、期待と不安が入り混じる中、全員元気に美祿市を出発し、福岡空港を経て台湾の桃園国際空港に到着しました。

研修初日は、台北市内にある美祿市台北観光・交流事務所と台湾のランドマークである台北101を視察しました。その後、台北駅から台湾高速鉄道(台湾新幹線)に乗り、台中駅まで移動しました。ちなみにこの台湾新幹線も日本製で車両の一部は日立製作所笠戸事業所(下松市)で製造されています。

美祿市台北観光・交流事務所

台北市の台北世界貿易センター展示ビル5階にある事務所を視察し、現地で行っている業務内容などを紹介しました。



台北101

高さ508mを誇る台北101は、台湾一の高層ビルで、89階にある展望台(高さ382m)までは、5階の入口から分速1,010m(当時世界最速)のエレベーターで昇り、所要時間はわずか37秒です。

このビルの建設には、日本の企業も携わっています。またこのエレベーターは日本製であり、随所に日本の技術が生かされていることを知りました。



研修2日目は、今回の最大の目的である南投県立水里国民中学との交流事業を行うため、台中市の宿泊先からバスで約1時間半かけ、南投県立水里国民中学に向かいました。

水里国民中学交流歓迎会

水里国民中学に到着すると、多くの生徒や学校関係者の皆さんにあたたかく出迎えていただき、体育館で開催された歓迎会では、台湾原住民の歓迎のダンスの後、お互いに英語で自己紹介や地域・学校などの紹介を行い、一緒にゲームを楽しみました。



水墨画体験

昼食後、中学校へ戻り、水墨画体験をしました。水墨画の先生の指導のもと、紙に墨と絵具で台湾の絶滅危惧種「石虎(タイワンヤマネコ)」を描きうちわに張り付けました。



玉山国家公園管理所

玉山国家公園管理所では、台湾で一番高い山「玉山」の自然について学びました。「玉山」は日本が台湾と統治していた時代には「新高山(にいたかやま)」と呼ばれていた山です。

歓迎夕食会・ホームステイ

歓迎夕食会は、水里国民中学PTAの人が経営する民宿の中庭で開催され、地元特産品を使った料理などでおもてなしをいただきました。

この歓迎夕食会には、学校関係者だけでなく地元の人々もいろいろな差し入れを持参して参加され、台湾のおもてなし文化を体感でき、研修生も水里国民中学

の生徒たちと身振り手振りを交え、積極的にコミュニケーションを取るなど、とても和やかな会となりました。



その後、研修生は、この民宿に水里国民中学の生徒たちと一緒に宿泊し、交流を深めました。

交流事業最終日の研修3日目は、台湾中部を代表する景勝地「日月潭(にちげつたん)」に移動し、遊覧船クルーズ、カヌー体験等を行いました。

遊覧船クルーズ・カヌー体験・お別れ

水里郷側のご配慮により、水里国民中学PTAによる遊覧船クルーズと通常一般開放されていない日月潭内のカヌー練習場で特別にカヌー体験を行うことができました。

遊覧船クルーズでは、ガイドさんの説明を聞きながら風光明媚な日月潭を楽しみました。

カヌー体験では水里国民中学の生徒のサポートを受け2人1組で乗船しました。

最初は恐る恐るパドルを漕いでいましたがすぐに慣れ、スムーズに湖面を進んでいました。



昼食会場では、水里国民中学の生徒たちとの最後の食事ということもあり、お互い会話も弾み、男女問わず記念写真を撮るなど、別れを惜しむ姿も見受けられました。

水里国民中学の皆さんは、雨が降っていたにもかかわらず、バス駐車場まで見送りに来られ、最後の最後までもてなしていただき、研修生もいろいろと感じることに多い有意義な交流事業になったのではと感じています。

来年は、水里国民中学の生徒を美祿市で受け入れる予定ですので、関係者と交流プログラムなどの打ち合わせと準備をしっかり行います。研修後半の様子は、来月の広報で紹介します。

問い合わせ先 観光振興課 ☎0837(62)1430

病院だより98



美祢市立美東病院 リハビリテーション室の紹介

この4月から職員1人が加わり、理学療法士4人、作業療法士2人の計6人で入院や外来の患者さんのリハビリをしています。

理学療法士と作業療法士の違いは？

理学療法士は、寝る、起き上がる、立つ、歩くなどの日常生活で基本となる身体機能のリハビリテーションを行います。

作業療法士は、日常の動作（作業）や手芸やレクリエーションなどをおして、身体と心のリハビリテーションを行います。



リハビリはどんなことをするのか？

患者さんの身体状況に応じて、物理療法や機能訓練を実施しています。

物理療法…ホットパック（温熱療法）、電気治療など

機能訓練…身体の動かし方の訓練、体操など

リハビリを受けるには？

はじめに医師の診察を受けていただきます。

リハビリ開始後は経過を診るために定期的な医師の診察が必要です。

まずは医師にご相談ください。

機器の紹介

マイクロ波治療器（電気治療）、エルゴメーター（自転車）、ハドマー（両下肢のむくみとり）、アンウェイシステム（可動式免荷装置）、その他さまざまな機器が揃っています。

平成28年に導入した“アンウェイシステム”は、ハーネスで体を吊り上げ、体重が脚にかかる量を調整しながら安全に立位・歩行訓練を行う装置です。



歩くのが難しい人でも、歩行訓練を行うことができます。この機械は長嶋茂雄さんが脳梗塞で入院をした際に使用したことで有名です。

福祉用具も取り扱っています

杖や杖先ゴム、靴、押し車などの福祉用具の注文・販売を行っています。

「最近、歩きにくくなったけど、どのような自助具を買ったらいいのか分からない」という場合など、スタッフが患者さんの歩行状態に合った補助具を選択いたします。

お気軽にリハビリテーション室までお越しください。



これらの福祉用具も取り扱っています。

問い合わせ先 美祢市立美東病院 ☎08396(2)0515